

## 講演記録

## 移住の多面性：メキシカン・ディアスポラ

マリオ・ヌニェス＝マリエル

## I. 多次元的方法論

メキシコと合衆国の間を移動する人間の流れの意味を真に理解するためには、ジオエコノミック<sup>1</sup>な諸条件の発展をめぐる限界と可能性の双方を理解しなければなりません。その発展とは、不均衡な経済と新しいグローバルな労働分業の枠組みのなかでますます増大する相互依存の形で生じる地域発展のことです。同様に、いかに両国が相互に干渉し、政治構造を修正しつつあるのかという点に注目することで、二国間での民主主義の不平等な発展にみられる地政学上の問題についての理解にも努めたいと思います。それと同時に、3000キロ以上の国境を接する隣国同士の両国関係にも注意を払わねばなりません。その国境は、錯綜する国家安全保障のジオストラテジックな決定要因として作用しています。国家安全保障問題では、両国は共通の脅威としてテロリズムと麻薬テロリズムに直面しており、根深い相互依存関係ゆえの共同責任と協力という意味で両国が共有する任務として、義務的であれ任意であれ、西半球（米州全域）の安全保障を考慮することを義務づけられています。また、両国には西半球の安全保障の重要な問題ともなっている気候変動をめぐる共闘する必要があります。もちろん、北米の統合を実現する要素としてのジオカルチュラルな関係、文化移植のいわゆる「ソフト・パワー」を忘れてはならないでしょう。北米の統合においては、各主体、各個人が、独自に実存する、したがって文明をもたらす、衛星通信装置と際限ないサイバー空間の利用を通じた運搬者なのです。以上これらが、二国間関係の多次元的な側面ですが、しかし同時に、その越境的移動においてそうした複雑なあらゆる要因を持ち運ぶ運搬手段としての移民が内に秘めている側面でもあります。

## II. 移民と人口統計

メキシコ人口の10%にあたる、かなりの割合の人口が合衆国に根付いています。メキシコ外務省の最近の調査では1178万人の合法・非合法移民が合衆国に居住しています<sup>2</sup>そして、合衆国の経済は、すでにメキシコ人のサービス労働者、

農業労働者、工業労働者、専門職なしでは立ち行きません。同様に、メキシコも海外からメキシコ人が年間に家族に送る 200 億ドル以上の送金なしで済ませることはできません。当然、あらゆる日常生活のレベルでメキシコ社会とアメリカ合衆国社会の間の相互依存と統合あるいは相互浸透ができあがっています。しかし、アメリカ合衆国に住むメキシコ系移民の存在感を計るために、別の重要な人口学的比率を見てみましょう。それは以下のような数字です。2010 年の国勢調査で、ヒスパニック人口は 50,325,522 人で、合衆国最大のマイノリティになりました。そのうち、3180 万人はメキシコ系です<sup>3</sup>。その中には上述の 1178 万人が含まれており、そのうちの 470 万 4000 人は、合法化され 2 重国籍です。そして、706 万 6000 人は、非合法移民として住みついていましたが、最近そのうちのほぼ 100 万人が強制送還されました。けれども、そのメキシコ人集団の中に、非合法移民の両親の間に合衆国で生まれ、それゆえに合衆国籍を持った子どもが 500 万人含まれていることを忘れてはなりません。

さらにこれらすべての数字は、地下に潜っているのが不正確ですが、ホセ・マルチティなら「怪物の臓物」と呼んだであろう、合衆国の中に占めるメキシコ系移民コミュニティの存在感を過小評価しています。メキシコ系移民コミュニティは、目立って増加が加速しています。2000 年には 2060 万人でしたが、2010 年には 3180 万人、つまりたった 10 年間に 54% 増加しています。その数字から、アメリカ合衆国の一部の人々が、大部分のメキシコ系移民は生産的であり、首位経済大国として合衆国を維持するために貢献しているということを理解もせず、「侵入された」と感じているのもわかるというものです。確かに、ヒスパニックの中でメキシコ人以外は非常に少ないことを考えると、どこにでもメキシコ人がいると思いついても止むを得ません。メキシコ系移民は、3180 万人で、それに 460 万人のプエルトリコ人、180 万人のキューバ人、170 万人の中米 5 カ国出身者、南米 13 カ国の移民を総計して 140 万人が続きます。その不均衡は大きく、重要です。

もう一度確認しましょう。2010 年のアメリカ合衆国の総人口は 3 億 880 万人、白人が 65.1%、ヒスパニックあるいはラティーノが 15.8%、アフリカ系アメリカ人が 12.9%、アジア系が 4.6% です。国勢調査に基づく移民政策機構の統計によれば、(合衆国の外で生まれた) 移民人口は、2009 年に 3850 万人で、全人口の 12.5% です。このうち、メキシコ移民は突出した最大の集団で 30% を占めています。他の主要な移民集団は、フィリピン 4.5%、続いてインド 4.3%、中国 3.7%、ベトナム 3%、エルサルバドル 3%、韓国 2.6%、キューバ 2.6%、カナダ 2.1%、ドミニカ共和国 2.1% です<sup>4</sup>。

これらのうち、約 1160 万人が非合法移民です。そして、前述のようにその

63%がメキシコ人です。ピューヒスパニックセンター (Pew Hispanic Center) の最近の報告によれば、この数字は合衆国の経済危機にも関わらず、危機以前のように増加が続きはしませんでした、安定しています。これは、強制送還の増加にともない、合衆国に来るメキシコ人、中米の人々が減少しているからです。すべては超保守派が抱く国家への脅威から説明されます。超保守派は、メキシコ人を標的にしたのです。彼らの明白な人種差別は、もう自分たちが優勢ではないと感じているために、イデオロギーとして続いています。単一の言語しか話せない、多言語話者を毛嫌いするのは、特にスペイン語は、議論の余地なく第二言語となっているので嫌うのです。彼らの大部分は白人で、頭の中のイデオロギーの基層にいつまでも優越感が染みついているのです。自分の国がそれまで慣れ親しんでいた自分たちの土地ではもはやなくなると感じています。老いることや、十分な子孫を持たないことに苦痛を感じています。子孫を増やせれば、長期的に優越性を維持でき、車いす生活や寝たきりになった時に食事や排泄の世話をしてくれるメキシコ、南米、中米の看護師に頼らずに済むのですが、そうはいかないために苦悩しているのです。

### Ⅲ. 移民嫌悪集団の組織化

オバマ大統領に対する保守派の防衛、かつ攻撃の現れとして、合衆国の白人人種差別主義者は、アリゾナ州のSB70に似た法律を少なくとも14州で可決しようとしています。英語を公用語とする方策が再生され、白人の優越性を標榜する集団と憎しみによる犯罪が増加しました。Rush Limbauth、Glen Beck、Cal Thomas、Lou Dobbsなどの右派や極右の反メキシコ人コメンテーターが、暴走しています。移民改革に反対するキャンペーンが声高で、ユダヤ人に言及する時のナチスを思い出させるような、メキシコ人に対する悪意のある議論を利用しています。オバマ大統領と非合法メキシコ移民は極右の運動に対して連携しなければならぬのではと思われるほどです。しかし、それはありえませんでした。オバマ大統領が右派と妥協し、彼らを騒がせないように強制送還の記録を更新することを選んだためです。自分の政敵は移民の敵だということを大統領は理解していないようです。Mark Krikorianとその移民研究センター、John Tantonの研究所とその弟子のPeter Brimelow、Jim Gilchristとミニットマン（市民兵）、Ku Klux Klanの流れをくむ186組織、111の白人優越主義者の集団、196のネオナチグループ、愛国集団と呼ばれる149の人種差別グループ、Skinheadの98グループ、93の新南部連邦の人種差別主義集団、630の反移民・人種嫌いのインターネットサイト、Michelle MalkinとRoger Hedgecockタイプのファシ

スト的言説を使う反移民ラジオコメンテーター、フェニックスの KFYI-AM ラジオのような右寄りのラジオ局、そして最後に右派で反移民の福音派共和主義者、彼らははじめにオバマを憎んだようにメキシコ人を憎んでいます。白人人種主義者のマイノリティへの嫌悪は大変なものなので、私たちは反対に、反メキシコの人種的社会的な偏見の非合理性の記号学的、言語的構造の核心に迫るために、合衆国の右派の愚かさを構成する要素を研究する必要があります。「貧しい人のための南部法律センター」(SPLC)によれば、現在、合衆国に 932 の移民嫌いのグループまたは組織(人種やタイプに対して申し立てをする人々と定義します)が運営されています。SPLCはこの現象の追跡に従事しています。2000年の初めの10年に、移民を嫌悪する集団の数は54%増加しました。そして前述の組織は、はじめてのアフリカ系アメリカ人大統領を選出したことによるラテン系移民への恐怖によって、同様に失業の増大のために他者への恐怖を掻き立てる経済危機によって、移民嫌悪集団増加のこの傾向は強まったといえます<sup>5</sup>。

移民嫌いによる犯罪の数、反移民州法の可決、人種差別や反ゲイの多数のトラブル、沢山の偽りの人種差別情報や反移民のメッセージを流すインターネットサイトの増大を考慮すると、移民に最も寛容な州の中では、反動的ではないということから、まずウィスコンシン、これに続くのはメリーランド、イリノイ、ペンシルバニア、ハワイ、カリフォルニア、ミネソタ、ニュー・ジャージー、ニュー・ハンプシャー、ニュー・ヨーク、ニュー・メキシコが挙げられます。あからさまで明確な人種差別が見受けられ、最も寛容度の低い10の州は、アラバマ、ケンタッキー、ノース・ダコタ、アリゾナ、ユタ、アイダホ、オハイオ、ネブラスカ、カンザス、アーカンソー、テキサス、そして最悪はワイオミングです<sup>6</sup>。現在の反移民攻撃のもとで移民は、どの州を出てどの州へ向かうべきなのか知っています。

面白いことに、右派と極右がメキシコ系移民に対する迫害を正当化するために使う常套手段のひとつが、税金を払わずに公共サービスを利用しているという主張です。これは、単純に間違っています。合衆国移民政策センターの「非合法移民もまた税金を払っている」という調査報告によれば、合衆国において非合法移民と契約することを禁じ、非合法移民を犯罪者とするアリゾナ州の SB1070 やアラバマ州の HB56 のような措置が増えていますが、2010年には身分証明書を持たない非合法移民は国家の経済に総額で112億ドル貢献し、地方税、州税として支払っています。非合法移民がもたらす額面は、所得税で12億ドル、固定資産税で11億ドル、消費税で84億ドルです。

非常に反動的で、歯止めのない人種差別主義の保守派の攻撃に対して、懸念すべきデータがあります。メキシコ人そしてメキシコ系アメリカ人社会は人口の大きさからみて当然持つべき政治的存在感を持っていないのです。その声は弱く、

取るに足りません。ワシントンの議会議員たちに対して、州や地方政府の役人たちの間で、政党幹部の間で、高等教育機関の中で、初等・中等教育機関で、保健、宗教、娯楽の機関のどこにも声が届きません。さらに、合衆国の立法や行府の面で代表を選出できる割合が、メキシコおよびメキシコ系アメリカ人社会は低いということが言われているのは当然なことです。政治上、制度上、教育上での存在感の欠如が、ロビー活動や意思決定時の直接の影響力において、合衆国のさまざまな組織や団体でよく認識されているユダヤ系、アジア系、キューバ系社会と比較されます。

#### IV. 領土の新たな地平

つらい逆説ですが、メキシコ人の移動は地球上でもっとも強大な移民の流れです。それは後戻りできない人口的な重みのためであり、地理的な意味のみならず社会的な大移動のためであり、社会的、政治的、経済的、そして文化的な様々な社会との相互作用のためです。これらのコミュニティは、地理的にも歴史的にも広大な合衆国の国土に侵入してきました。絶え間ない移民の波を通して、アメリカ合衆国はその国土に定住した素晴らしい外国人たちによりさまざまな経路を通じて世界中の歴史を集めてきました。合衆国の国土は、他の国民とメキシコ人との出会いの場所です。アメリカ合衆国独自の人々と、カナダの人々、カリブの人々、中米の人々、南米の人々、西洋と東洋、アジアとアフリカ、特にアフリカはアフリカ系アメリカ人と最近移民したアフリカ人とのコミュニティのめまぐるしい出会いがあります。かつてメキシコは数で見られることはありませんでしたが、世界の人々全体と相互に関係を結び、それゆえに一般化し、世界全体の文化を社会、政治、文化的日常性にうまく統合してきました。2006年の3月から5月初旬にかけての代表的な抗議デモに示されたように、合衆国にいる世界中の様々な地域出身の非合法移民が、明らかに戦略的同盟を結び、連帯してメキシコ人非合法移民と行動を共にしました。メキシコ人は、参加者数の上でも、移民改革に賛成する運動や差別に反対する運動、非合法移民の労働権や人権侵害に反対する運動を含む組織の数からも、動員された中で絶対的な多数派でした。明らかに、その様々な国籍をもつ人々との連帯を反映した運動の普遍化は、民主主義勢力としてアメリカ合衆国での政治的地位を強化しました。そのデモは平和的で、独自の立場と要求を掲げながらも受け入れ国への愛着心を前面に出したものでした。しかしながら、受け入れ国の発展への明らかな貢献を考えれば、与えられて然るべき合法的地位と社会的承認を得ることは依然として難しく、原則として非合法移民は拒絶され排除されると同時に、利用されているのだということは否定できません。



社会的には、メキシコ移民は支配的社会経済構造に組み込まれており、システム構造の一部として正式に認知されていないにもかかわらず、その一部として環境に適応しています。政治的視点からは、第一世代の移民は、受け入れ社会に居続ける代償として、人権侵害の状態です。受け入れ社会は侵略だとして外国人の存在に怒るけれども、もちろん、その労働力を利用するのをやめずにはいます。第一世代の移民は、自分に関する事への意思決定から排除され、二重の拒絶に耐えています。支配的な白人社会と、先に移民してきたあるいは移民第二、第三、第四世代の同国人からの拒絶です。文化的な観点からは、移民は過去と現在の文化の運搬者です。現在の文化というのは、移民行動によって支配的文化とつながりを持つようになったとともに、対立するものです。

メキシコ人は、合衆国に世界的に類のない規模で大量に引き入れられ、世界中の文化が集中した覇権大国の日常機能を維持するのに不可欠になっています。そのようにして、多様な民族性と文化を持つメキシコ人は、普遍性の観点からより発展した資本主義の近代性の一部となっていきます。多様なメキシコ先住民社会である、ヤキ、マヨ、ニャニユ、プレペチャ、ミシュテコ、サポテコ、ナワ、マヤなどは一合衆国のなかで数が多く、移民の歴史が長い集団を挙げているだけなのですが一、出身社会の発展の遅れや貧困から地球上の最も発展した資本主義という意味で財とサービスを生産する都市的近代性へと、質的な飛躍を遂げるメカニズムに遭遇しました。彼らの存在は、移民すべてはメスティソ（混血）だという古いナショナリズムが引き起こす間違いを確認するものです。実際には、メキシコ人同士は合衆国の国内で違いが薄められています。異なる社会的出自や民族的起源をもつ非合法入国のメキシコ人の中では、みな等しく軽蔑される時に共有する逆境の中で違いは消えてしまうのです。様々な状況のメキシコ人の連帯は、不可分の環境の中で容易に示されます。同様に、非合法メキシコ人と非合法ラテンアメリカ人の関係は、明らかに、支配社会の非難に耐え、共感することから始まり、複雑さと連帯のうちに現れます。

他者性は、基底部にある同質的文化アイデンティティにより形づくられ、一目瞭然となるまで、消費主義と資本主義の経済活動により無理やりに同質の分母に統合されます。メキシコ人は合衆国のアングロサクソンの支配的社会により承認され、同時に拒絶されます。この二重性は、新しい現実への適応条件の一部です。しかし、またメキシコ系アメリカ人、つまりチカノは移民したばかりの第一世代のメキシコ人を軽蔑します。一方、居住地区でも、職場でも、病院でも、娯楽の場でも、軍隊でも、刑務所でもアフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人社会と共生するのも難しいのです。

しかし、歴史上最大の文化の集中が現代のコスモポリタンな生活の発展モデル

として合衆国内に息づいていると考えられます。多文化性、多民族性は、瞬時のコミュニケーションの世界でのグローバル性のあらわれです。郊外電車の中で自分の出身国から見れば地球の裏側からきた人の前で i-pod を使用するのが日常的であり、そんな二人が適切な在留資格がなくとも異境にいるとは感じず、外国で出会っても何の違和感もなく、労働と存在が機能する新しい領域意識です。その時、我々は異なる社会間の対立を減らすことをせず、それゆえに、友情や結婚や娯楽を通じて、労働の場や生活の場で、さまざまな社会へのメキシコ系アメリカ人やメキシコ人社会の統合を否定することができるのです。一般的な前提では、必要な構成要素としてのメキシコ性の区別を最大に受け入れ、コミュニティを越えた総体を認めることが、異なるコミュニティ間の統合におこるでしょう。許容できる他者として、価値を認められるためには他者の価値を認めるということです。現代の違いは、アイデンティティの増殖と断絶のプロセスを生み出すインターネットを通じたコミュニケーション・ネットワークを利用して、サイバースペース特有の速度で一連の相互作用があるということです。コミュニティのインターネット利用者は、バーチャルな行為者を抱える多様な総体の中で、反移民組織と 600 以上あるコミュニティ間の憎悪の種まきをするインターネットサイトに立ち向かう時に、移民過程と新しい占有領域を利用できます。

このように、移民の進行過程はいまや、隣国のあるいは地政学的に隣接する国の領土の間で人が自由に往来すること以上のものであることは明らかです。従来の空間と親密性を補強する衛星電話にアクセスする人々の人口学的な流れをみてみましょう。サイバースペースは空間を改装し、新しい日常生活の次元を再生します。もう、誰も、単なる統計上の数字の上がり下がりとしてみなされることに満足しません。統計はずっと広い現象を切り取る単なる写真か計測機になっています。地理的視点から見た政治的な意味において、人は地政学的な意味では数字ではなく、主体なのです。移動のただなかであり、互いに交信しあえる、地球市民であり、市民生活、政治、社会、労働、経済、民族、環境、文化の面での総合的人権をもつ、そしてテロリズムや組織犯罪、軍事的紛争、地球環境破壊、自然災害、グローバルな経済危機などの地球規模の脅威のもとにある主体なのです。コミュニティ間を移動し、ともにつながりあう大衆の空間に関するどのような解釈も、全体としてそこに参加している人を考慮しなければ、現象に関する部分的で、歪曲した、あるいは間違ったイメージを生み出すでしょう。例えば、もし、単なる労働力として彼らを考えると、2006 年の 3 月から 5 月、合衆国の全土で繰り広げられた非合法移民の抗議デモで行使された組織力・政治力を見逃してしまうでしょう。そのデモはインターネット上で人々を召集し出会させた特権的なサイトを持つに至ったのです。

このことから、古い物差しで作った移民の概念やカテゴリーを壊して、この現実を研究する必要があります。これまでは数や輸出労働力や単に合衆国とメキシコへの経済的貢献として移民を過小評価したり、移民を政治的必要悪、国境の両側で選挙の時だけ必要不可欠の考慮の対象として理解していました。移民が存在することによる社会支出や望まれないコストの収支やその再計算の対象として扱っていました。自己決定し、一人前の成人である主体として移民を捉えることで、新しい占有領域で相対的な主権を持つことを余儀なくされた現状を解決するために、移民が参加できる組織を作ることと呼び掛ける手法を研究の中で模索するように私たちに迫ります。否定できないことは、私たちのすべき研究が移民に関する制度化された計量化に対して慎重であり、反対に、移民の流動性の数値的厳密さが新しい相互作用をよりよく測定することを可能にすることです。例えば、大陸内電話の登録に関して注意が必要です。というのはメッセージが増えるという特徴は、人々の社会化の強度の表れだからです。現代に生きる人々は、自己決定により移動し、あきらめずに、絆を壊さないような社会条件を維持します。矛盾するとはいえ、現代世界は個人主義を激化させながら再生しています。しかし、同時に現代社会はメッセージを増やし、出身地への親密性や家族関係を守るための道具を生み出します。この意味での例をひとつ述べると、ニュー・ジャージーの例で、移民したばかりのグアテマラ人が携帯電話と電話カードを使って、出身コミュニティと常に連絡を取り合っています。それは、どんな社会心理学者も、孤独や帰還が不可能であること、敵意のある社会に対して孤独を感じることでより生み出される不安感に対する自己防衛のメカニズムとして解釈するでしょう。

移民とは、自己決定により、さらに出身国の恒常的な危機により、ある国から別の国に移動する人々の大量の流れです。地域の経済的な不均衡は、移民の移動あるいは流出を刺激する起爆装置です。拡大と労働市場の縮小と結びついた地理的移動は、メキシコ人にとっては憲法で個人に保証された自由の行使であり、また1948年の国際憲章で確立された人権の一部です。人々の国際的な権利は、移動する権利であり、存在に意味と保護を与える総合的な権利は人と共にあります。人と権利は不可分で、移動した人は、政治的、市民的、経済的、社会的、文化的権利を享受すべきですが、大国は侵入されたと感じ、それらの人の尊厳と発展を保障できません。移民に関する国際機関のあらゆる決議や国連の委員会報告書、またNGOや移民の人権を扱うNGOを緊急に点検する必要があります。さらに、先駆性がある研究を行い、移民の権利のまもり手である合衆国内の移民を守る組織の仕事を点検し、知るべきです。私たちメキシコ系アメリカ人とメキシコ人（サカテカクラブ、ミチョアカン、ハリスコ、オアハカ、プエブラのクラブ）の何百の組織は方策や言説、概念、プログラムを持っています。これらの組織は、



長い間に、計り知れないほどの貴重な経験を蓄積し、さらに移民現象に関する新しい言説や概念、認識、権利回復により経験を豊かにしてきました。無数の組織の住所録も大事ですが、移民や第二、第三、第四世代の子孫たちの過去の経験の分析も大事です。受動的で、従属的で、忍耐をしてきた人々の過去の経験の分析や移動や新しい領域の構築、権利の防衛の中で政治的対処をしてきた人々、チカノ・アイデンティティの起源や1960年代の *Boinas Cafés*<sup>7</sup> の起源に関して、急進的な時代にあまり知られていない政治的に成熟した交渉の分析が必要です。

移民の受け入れ国は、国際的権利をこのように考慮すべきですが、一般に国境と国土を守るという国家の利害を優先し、移民の人権の尊重の欠如と排除を正当化します。憲法条項は、移民を人権の普遍性から排除し、ただ同胞の権利を守ります。北の国々では防衛的な言説が繰り返され、人口が生産に必要な時に安価で豊富な労働力を要求します。移民を地方とグローバルレベルで競争的な環境におきます。しかし、同胞のために国家安全保障と労働力を守ることが、移民の障壁を強化し移民の労働の権利を侵すことにならざるをえないということの収支は理解できません。このように、グローバルな資本主義は、未熟練と熟練労働力が過剰な国々に合わせて増加する移民のもつ矛盾を救いようがなく生み出します。中国やインドが、物質的な過剰搾取と半奴隷的熟練労働により獲得した商品であふれかえるグローバル市場において競争の最前線になるのです。(中国での全体主義的政治支配を考慮すると、中国は、はじめにすべての労働者の労働の権利を独占します。)

しかし、現在、不均衡は世界的なものです。明らかなことは、雇用を保障せずに労働者を大量に解雇することにより生き延びている企業と肘を接して生きている、権利を主張できない労働者が大量に増加しているという圧力のもとで、システムがねじれているのです。ワシントンの統計でみるように、極端な自由主義と原理主義者のエコノミストのプログラムが、合衆国内と合衆国が支配する地域の多くの労働力の合理化を後押ししました。そして、同時に中国で生産された商品に合衆国がさらに依存する状況を作り出しました。中国は、最終的にかつての覇権を握った大国の主要な債権者となり、そして今は寄生虫なのです。

## V. 大陸内統合

地理的視点から見た経済は、もはや議論する必要のない逆説ともいえましょう。NAFTA（北米自由貿易協定）が発効したことで束縛を断ち切った経済的、社会的秩序の大陸内統合は、明らかに不均衡な国と国の間で歴史的に最も大規模な移民の波を引き起こしました。メキシコや合衆国やカナダの側から部分的貿易協定

世代が商品、サービス、資本の自由な流通があると主張しましたが、石油の問題を見直す代わりに明らかに人の流通に門を閉ざしました。歴史の誤謬は、最も保守的なセクターが期待したのとは違った結果を生んだのです。彼らは、実際に大陸内統合という賭博をするのに、NAFTA という、万能薬ではあるが恐いものを生み出したのです。そして、ゼロサムゲームの前提のもとで、統合ゲームをはじめました。勝ち組の先進国は負けた発展途上国に散々な結果をもたらしたのです。さらに不平等で不均衡な開発条件を生み出しました。これは、広範な生活困窮者を抱えるメキシコ大衆の衰退を引き起こしました。仕事のない沢山のひとびとを生み出し、自己決定により水がフィルターを通るように、これらの人々は障壁を飛び越え、乗り越えて、合衆国に向かったのです。人々の自己決定である以上、公正な移民の移動をとどめることは、決してできないでしょう。

世界危機の前に、不均衡な偏りが見られ、それは後に、ついに貧しい国と豊かな国を破産させたグローバルな亀裂をもたらすことになりました。2008年以前には、農業、牧畜業、魚業、中小規模の流通や中小製造業などのメキシコ経済の広範なセクターの破綻は、合衆国とカナダの資本拡大に対応していました。メキシコ経済は、西半球の歴史の中で最も打撃を負わせた労働人口に圧力をかけるきっかけとなったでしょう。そして、現在、大陸内の日常生活の中で多角的に修正が起こり、どこまで行くのか戸惑うしかないので。始まりにおいてもその後の実現においても、ねじれていた協定においても、協力的かつ機能的な地域発展のプロジェクトにおいても、3つの国の通商レベル以上の NAFTA が発効されたことによりねじれが生み出され、不均衡な修正が展開しました。

NAFTA 発効の初めに、経済的、地政的、戦略的、文化的な次元において明確にすることが必要となった長期の地域統合つまり構造的かつ制度的大陸内統合の過程で、社会的次元での修正が見られました。しかし、以前は大量の移民と大きな財政バブルが同時に起こり、二つの現象はともにひとつの世界を創造することが不可能であるとみられたはずで。合衆国は、経済的、財政的に深刻な不均衡に陥りました。そして、その国土内にいる移民大衆とともに、二重に麻痺した世界が生み出されたのです。移民は、やはり仕事がない出身地に帰らず、多国籍企業は破綻し、1929年の世界恐慌以来の深刻な失業の波を生み出し、たくさんの人々を路頭に迷わせました。恐慌は、1930年代には、絶望的な生活困窮者を産みました。同様に、30年代の悲惨な結果には至らないとは予想されますが、2011年までの合衆国の経済回復は遅いでしょうし、それとともに合衆国に残りたいにもかかわらず、我々の同胞の希望は叶わないことでしょう。

移民の人口現象は、NAFTA 調印者として主要な役割を担うメキシコ、合衆国、カナダの北米における大陸内統合の経済的次元に基礎を置いています。しかし特

に、この三国は、地理的に近く、社会システムとしてまた国家の再生産システムとして生き残る必要からはじまり、経済環境が入り組んだ並はずれた動態をもつ国々です。アメリカ合衆国は高齢化し、その人口増加の独自の歩みは経済に必要な労働力の増加を保証しません。同時に、特にメキシコの人口、一般的にラテンアメリカの人口は相対的に若く、合衆国経済が日々前進するための任務を果たす可能性を秘めています。しかし、移民のブームは、90年代から21世紀の初頭の間という、前例のないほど長い興隆期に起こりました。そして、今、前例のない経済危機が起こり、移民現象は収縮し、長い経済調整期間に合衆国内の移民の就労機会は回復しないでしょう。その経済調整の期間とその深刻さは予測できません。

## VI. 移民の流れの縮小

移民の流れは、2011年には最悪でしたが、最近縮小してきています。大量の強制送還により、また、そのために、結局、合衆国よりメキシコでの生活によりよい選択肢を見つけ始めたために、移民の流れが縮小したおかげで非合法移民は絶対的にも相対的にも減少しました。闇で国境を越える行程は、麻薬密売人が人身売買をするようになって以降ますます危険です。不景気と国境警備の厳密化により、別の国で生きるためにメキシコを去った移民の数は、2006年から2009年の間に59%減少し、全体で37万人です。このデータは、OECD（経済開発協力機構）メンバー国の移民の動きに関する最近報告書の中にあります。そして、この報告書は事務総長ホセ・アンヘル・グリーアによりブリュッセルで刊行されました。調査によれば、メキシコで見られた減少は、合衆国向けの流れと労働が動機の移民の中で際立っていました。労働が動機の移民は2006年から2009年の間に64%減少し、25万5千人にまで達しました。この種の移民は、国を去ったメキシコ人の移動のほぼ70%、そのうちの大部分はアメリカ合衆国が目的地でした。OECDは、2007年から2009年にかけて合衆国の国境を越えようとして、拘束されたメキシコ人数が40%減少したとしています。拘束者数は52万8千人です。OECDによれば、これは両国の間の移民の流れの「実質的」減少が原因です。減少は、メキシコの出移民の全般的縮小により引き起こされています。一方、合衆国からのメキシコ市民の強制送還は、この時期15%増加し、28万3千人に達しています。OECDは、合衆国に向かう移民に対してメキシコ麻薬カルテルが引き起こした誘拐や暴力が、「相対的に普通」の出来事になってしまったと警告しています。また、経済危機は、外国に居住するメキシコ市民の送金に「重大な」影響を与えています。2006年から2009年までに約20%、全部では210

億ドル減少しました。OECDの調査は、メキシコが2006年から2009年までに永住移民数が約60%増加し、2万4千人まで達した経験をしており、その大部分はアメリカ合衆国、中国、グアテマラ、コロンビア、キューバ出身であると述べています。同時に、メキシコに来る季節労働者数は33%増加し、3万1千人に達し、その大部分はグアテマラとベリーズ出身です<sup>8</sup>。

## Ⅶ. 反移民法

メキシコから合衆国への移民の流れに対するもうひとつの否定的材料は、合衆国の12州で反移民法が可決されたことです。特にアリゾナ州とアラバマ州は、人種差別的かつ攻撃的で、それが明白な結果をもたらしています。実際、非合法移民の追跡、基本サービスへのアクセス制限、移民の罰則化を目的として州において厳しい法的措置が取られました。2005年に、州レベルで移民関係法が300提案され、36が可決されました。その数は2009年までに10倍になり、1,405の提案がされ259が可決されました<sup>9</sup>。アラバマ州のHB-56法令は、州警察と地域警察が職務質問でき、非合法入国の容疑者を逮捕できるように用意されました。さらに、公立大学に非合法移民の若者が入学を許可することを禁じました。学生の両親と学生自身の法的地位の調査を公立学校に要求し、親は子供の移民の地位の申告を余儀なくされるでしょう。公立学校は、すでに入学登録を済ませているだろう合法的、非合法的な移民の数を公表するように、またそのための経費の報告を義務付けられるでしょう。法律は、非合法移民が家やアパートを借りることを禁じ、非合法移民家族への賃貸を罰則化しました。非合法移民労働者に支払った月給への所得控除を禁じました。被雇用者はシステムE-Verifyを使って、被雇用者の法的地位を確認しなければなりません。移民の法的地位を証明する身分証明書がないと罪になります。同様に非合法移民へと内容を変えるのも罪でしょう。総じてアラバマ州では、非合法移民が生活できないような法律を求めています。

権利の回復と将来の繁栄のために、どのように移民を受け入れるのかを凡そ把握するため、危機管理の必要性が生まれました。私たちは、競争を生き抜くために、通常では非合法労働の利用価値がある製造業やサービスに起こっていることをすでに知っています。それらは、農業、建築、医療サービス、ホテル、レストラン、肉や食糧の加工で、非常に厳しい生活を送り、そして主にラテン系や特にメキシコ人の移民に影響を与える仕事を急速に削減して来た活動のすべてです。カリフォルニア州の雇用開発局の統計によれば、ラティーノは、2009年の失業率が12.3%です。2011年にはヒスパニックあるいはラティーノは17.4%の失業率に

達すると予想されています。（その中でメキシコ人は最も影響を受けます。）これは、このヒスパニックのマイノリティの失業率の水準が今までで最も高いことを示しています<sup>10</sup>。このように、特に合衆国とメキシコにおける現実と世界規模の危機は、これからの数年の間に移民現象の展開を調整し、複雑な経済の発展が、移民の経済・政治的下降や推移を左右するでしょう。

まず、大量の強制送還とたくさんの反移民法が、合衆国のもっとも保守的な州の地方議会で最近採決され、目的を達成しました<sup>11</sup>。かなりのアメリカ農業者や小規模な商業の破産、非合法労働のメキシコ人が働き生計を立てていたモーテルの倒産、中規模の肉梱包業者の破産、売春宿、ダンスホール、バーの倒産、多くの床屋と美容院の倒産、最後に少数の共和党ファシストたちによる人種差別により、多くの郡の地域経済が破綻しました。すでに2011年6月に、合衆国のすべての農業者は、契約を結ぶために移民労働者の滞在資格確認を義務づけるE-Verify法に反対しました。前述の法律は、今はそれが間違いだった事がわかりますが、すべての農業者を脅かし、共和党による偏見と決別しています。メキシコや中米の労働者の排除により、彼らがしていた仕事を合衆国の労働者が替わりに行うようになっていたと思っていたのですが、合衆国の労働者は豆を収穫するために10時間も12時間も背中を丸めて働くことを拒否しました。

共和党の愚かさにより引き起こされた、非合法のヒスパニック労働者、特にメキシコ人労働者の排除に集中した人種差別は、何世紀もの人種差別の中で最悪の経済的な暴挙となってしまいました。テキサスの農家は、保守的ではありますが愚かではありませんので、警察と移民問題には電子システムE-Verifyの信頼性は高いけれど、経済的には年間3900億ドルのビジネスである食品産業にとって破局を意味することに気づきました。食品ビジネスは、非常に低い賃金で働く意欲のある何十万の非合法労働者に大部分を依存していることは明らかです。彼らは、アボガドからカボチャまで、あらゆる食物を収穫し、集荷し、梱包します。リンゴ生産組合会長のナンシー・フォスターは、先頃E-Verifyのおかげで、リンゴが木の上で腐ったままになり、組合加入者の破産が差し迫ったものとなったと主張しました。プラム、モモ、スモモの中規模生産者も同じことを主張しています<sup>12</sup>。

イリノイ州のようにいくつかの州が全面的にE-Verifyを拒否しており、さらに身分証明オンライン管理システムが実行できるかどうか分からない以上、E-Verifyの適用は疑問です。今明らかなことは、アメリカ人はもはや健康な田園生活には戻りたくないということです。アメリカ農業局局長のボブ・ストールマンは、合衆国の農地で70%の非合法労働者が働いていると見込んでいます。問題は、わずかのアメリカ人しか農業の労働条件に耐えられないので、労働力が



取り換え不能であることです。反移民法 HB-56 を可決したアラバマ州のトマトにも、今、同じことが想定されます。共和党のお墨付きを得たアラバマ州のファシストたちは、合衆国史上メキシコと中米移民に対する最も厳しい法律を強行しました。共和党員は、移民が生活できないようにすればアラバマ州から逃げ出さだろう、そして替わりに貧困白人と貧困黒人からなるアメリカ人がチリ、ジャガイモ、カボチャ、キュウリを収穫するだろうと考えています。アラバマ州の福音主義者の望む奇跡とは、家畜のいない農業複合施設で牛のために豆を食料にしたということです<sup>13</sup>。

## VIII. 結 論

大量の移民を抑制する鍵は、移民送り出し地域の総合的開発にあるとわかっていますが、それが模索すべき唯一の答えなのか、もはや定かではありません。まず、その理由はメキシコから見ても合衆国から見ても、最適あるいは必要な時期に移民を抑制するために、開発が実現できるかを示せていないからです。もう私たちは悠長にかまえてはいられませんし、メキシコで社会的圧力を逃す安全弁を使うこともできません。年間 200 億ドル以上の送金のないメキシコも、アメリカ合衆国に無期限に滞在していた何十万のメキシコ移民がいないメキシコも想像することはできません。結果的に大きな社会的動揺に耐えるのでないかぎりには不可能です。メキシコでは、経済成長と雇用の創出が後退しています。一方でメキシコの最良の人的資源の大量喪失と、もう一方では合衆国に避難したメキシコ人の雇用の大量喪失という雇用をめぐる矛盾を緩和する術が私たちにはないのです。毎年国内で労働人口の上昇に見合うように多数の雇用を創出するという負担は、終わりなく続きます。私たちは最近の「失われた」25年に存在しなかったけれど、今は必要とされる1千万以上の雇用の累積的な停滞について考えなければなりません。失業者が生み出され、インフォーマル経済において半失業状態にされ、合衆国に移民するか、何もせず貧窮するか、あるいは組織犯罪の一端を担う人たちが生まれるのです。

さて、北米における矛盾の結果、合衆国はヒパニック化し、様相が変化しています。そこに住む5000万人を上回るヒスパニックのうち、3500万人は家庭でスペイン語を話し、半分以上は英語が「とても上手だ」と述べています。共和党を支持する右翼や極右の少数派の反対にもかかわらず、スペイン語の重要性は合衆国の連邦政府が *GobiernoUSA, gov.* というスペイン語のサイトで発信していることでもわかります。奇妙ですが、取るに足らないというわけではないデータとして、合衆国の最も一般的な15の名前のリストの中にはたくさんのヒスパニッ

ク系の姓が入っていることあげられます。もっとも多いのは、8番目のガルシアです。それにロドリゲス、マルティーネス、エルナンデスがそれぞれ9番目、11番目、15番目を占めています。新しいデータでは、メキシコ系人口の絶対数が出産の増加により増え、移民は減少しています。2000年から2010年までに、メキシコ系住民の中で合衆国で生まれた子どもは720万人増加していますが、移民の増加は420万人のみです。今日、130万人のヒスパニックが軍隊に入隊しています<sup>14</sup>。さらに、110万人のヒスパニックが帰還兵です<sup>15</sup>。受け入れ国への忠誠心が欠如するかもしれないと言って、ヒスパニックを中傷する人を黙らせるべきです。

ヒスパニックは、ビジネスでも活躍しています。合衆国のヒスパニック系の企業数は、2002年から2007年までに43.7%増加しました。ヒスパニック系企業数の増加率は、他のグループの企業の2倍でした<sup>16</sup>。2010年には、25歳以上のヒスパニック人口の63%は、少なくとも高等学校を卒業しています。それは、疑う余地のない前進です。同様に、25歳以上のヒスパニック人口の14%が大学を卒業しています。2010年には、18歳から24歳の大学に就学しているヒスパニック人口は1220万人に増加し、大学に通うヒスパニックの記録を更新しています。2009年から2010年には、大学に行っているヒスパニック系の若者の数はさらに34万9千人増加しました。(アフリカ系アメリカ人の増加分は8万8千人、アジア系は4万3千人の増加、非ヒスパニック系白人は32万人減少しました<sup>17</sup>。)しかし、経済危機は、特にヒスパニック社会を直撃しました。合衆国で貧困の中で暮らすヒスパニック系の子どもは、他の社会の子どもたちよりもずっと多いのです。610万人のラティーノの子どもたちが貧困であると考えられています。そして、このうち、410万人は第一世代の移民の子どもたちで、他の200万人は合衆国で生まれたヒスパニック系の親の子どもです<sup>18</sup>。

明らかに、合衆国のヒスパニックあるいはラティーノ社会—その中でメキシコ系アメリカ人とメキシコ人は多数派です—は、逆境や差別や強制送還や機会の不平等、そしてオバマ政権の政策の一貫性の欠如にもかかわらず、多次元的な上昇過程のただなかにいます。オバマ政権は、強制送還数の記録を更新したことで、共和党員よりも執拗に反移民的です。この講演の最初に方法論として、移民を多次元的ベクトルとして見ることを提起しました。移民のジオエコノミックな役割は、送金を通じてメキシコで経済状況を補強するのと同様に、合衆国においても経済状況を支えています。合衆国では、その国際競争力の維持を可能にする破格な低賃金で、アメリカ人が拒否する重要な仕事をメキシコ人が引き受けています。メキシコ人とメキシコ系アメリカ人社会の地政学的役割は、両国での民主主義を支える機能です。合衆国に住むメキシコ人は、メキシコでの投票権を持っていま

す。また、メキシコ大統領を決定するという重要な役割を引き受けることもできるでしょう。メキシコ系アメリカ人は、すでに合衆国で誰が大統領として残るかを方向付ける重要な存在です。移民のジオストラテジックな役割は、合衆国とメキシコの国家安全保障における最も深刻な脅威、つまり麻薬テロリズムと関係しています。しかし、さらにメキシコ人とメキシコ系アメリカ人は、合衆国軍隊の非常に重要な成員ですし、国際紛争においても決定的役割を果たしています。ジオカルチュラルな面では、移民は合衆国とメキシコの間での文化受容の中心的媒体です。彼らは、言語、習慣、食物と料理、飲料や酒、音楽、祭り、芸術などで、千年の歴史をもつ文化をもたらし、合衆国文化を豊かにしています。これらの貢献があるからこそ、私たちはアメリカ人にむかって気後れせずに、「実際に私たちは多数派であり、多数派であるという幸運を持っているのです」と言えるのです。

#### 注

- 1 「ジオ」には、両国の地理的關係に基づく、という意味が込められている。
- 2 Dirección de Protección y Asuntos Consulares, *Indicadores en la Disminución de Flujos Migratorios México-EUA*, Secretaría de Relaciones Exteriores, Agosto de 2009.
- 3 AP, El Universal, “Crece a 50 millones población hispana en EEUU”, 24-03-2011. Además debe consultarse: 2010 Census Data; The Hispanic Population; [www.2010.census.gov](http://www.2010.census.gov)
- 4 David Brooks, “De colores”, *La Jornada*, 14-02-2011. Consultar también; 2010 Census Data: [www.2010.census.gov](http://www.2010.census.gov)
- 5 Southern Poverty Law Center; Intelligence Report; Hate Map; Intelligence Files; [www.splcenter.org](http://www.splcenter.org)
- 6 Ibidem.
- 7 アメリカ合衆国の市民権運動のさなかの1967年に設立されたチカノ組織で、最盛期には5000人のメンバーがいたと言われる。(訳者注)
- 8 Notimex, “Migración de paisanos disminuyó 64%: OCDE”, Bruselas, *El Universal*.
- 9 Jorge Durand, “Número de leyes antimigrantes y número de crímenes de odio”, *La Jornada*, julio 14 de 2011.
- 10 [www.pewhispanic.org](http://www.pewhispanic.org)
- 11 Jorge Durand, op. cit.
- 12 Jesse McKinley y Julia Preston, “Farmers Oppose G.O.P. Bill on Immigration”, *The New York Times*, julio 30 de 2011.
- 13 Campbell Robertson, “After Ruling, Hispanics Flee an Alabama Town”, *The New York Times*, octubre 3 de 2011. Ver también: Notimex, “Vive Alabama su día sin mexicanos por ley
- 14 [www.pewhispanic.org](http://www.pewhispanic.org)
- 15 [http://noticias.terra.com/noticias/hispanos\\_en\\_el\\_ejercito\\_de\\_estados\\_unidos/act2152052](http://noticias.terra.com/noticias/hispanos_en_el_ejercito_de_estados_unidos/act2152052)
- 16 [www.inmigracionyvisas.com/a664\\_empresas\\_hispanas.html](http://www.inmigracionyvisas.com/a664_empresas_hispanas.html)
- 17 [www.pewhispanic.org](http://www.pewhispanic.org)
- 18 [www.pewhispanic.org](http://www.pewhispanic.org)

## 参考文献

- Aguayo, Sergio**, 2005, *Almanaque México-Estados Unidos*, FCE, México.
- Alba, Francisco**, 2001, *Las migraciones internacionales*, Conaculta, México.
- Alba, Francisco**. 2001, “Migración internacional: Consolidación de los patrones emergentes”; en *Demos: Carta demográfica sobre México*, 2000, UNAM, Fondo de Población de las Naciones Unidas, INEGI, El Colegio de México, núm. 13, México, D.F., pp. 10-11.
- Andreas Peter**, 2001, *Border Games: Policing the U.S.-Mexico Divide*, Cornell University Press, Cornell Studies in Political Economy.
- Arango, Joaquín**. 2003. “Una nueva era en las migraciones internacionales” en *Revista de Occidente*, Madrid, pp. 5-21.
- Arizpe, Lourdes**. 1983. “The Rural Exodus in Mexico and Mexican Migration to the United States” en Smith, P. y Henry Shue, eds. *The Border that Joins*. Maryland: Institute of Philosophy and Public Policy.
- Arizpe, Lourdes**. 2004. “Migración y cultura: las redes simbólicas del futuro”, en *Los retos culturales de México*, México, Universidad Nacional Autónoma de México, M.A. Porrúa y Senado de la República.
- Berestein, L.** 2004. “Tightened Border in San Diego Shifts Strain to Areas East”, *San Diego Union-Tribune*, 1º de agosto.
- Brochmann, Grete**. 1999. “Controlling Immigration in Europe”, en Brochmann y Hammar (eds.), *Mechanisms of Immigration Control. A Comparative Analysis of European Regulation Policies*. Berg.
- Bustamante, Jorge A.**, 2002, *Migración internacional y derechos humanos*, UNAM, México.
- Cabrera, Enriqueta, Compiladora, *Desafíos de la migración*, Planeta, México, 2007.
- Calavita, K.** 1990. “Employer sanctions violations: toward a dialectical model of white-collar crime”, *Law and Society Review*, 24(4), 1041-69.
- Campos y Covarrubias, Guillermo, coordinador, 2009. *Educación y salud en los migrantes; México-Estados Unidos*, Porrúa, UNAM.
- Castles, Stephen, y Mark JH. Miller**. 2003. *The Age of Migration*, The Guilford Press, tercera edición, Nueva York.
- Castro Martínez, Pedro**, “Las relaciones México-Canadá: su evolución reciente”, *Foro Internacional*, 41 (2001), pp 761-783.
- Cornelius, W.A.** 1992. “From sojourners to settlers: the changing profile of Mexican migration to the United States”, en Bustamante, J.A., Reynolds, C.W. e Hinojosa.
- Cornelius, W.A.** 1998. “The structural embeddedness of demand for Mexican immigrant labor: new evidence from California”, en Suárez-Orozco, M. (ed.) *Crossings: Mexican Immigration in Interdisciplinary Perspective*, Cambridge, Mass. Harvard Press/David Rockefeller Center for Latin American Studies, pp.115-55.
- Cornelius, W.A.** 2001. “Death at the border: efficacy and unintended consequences of US immigration control policy” *Population and Development Review*, 27(4), pp. 661-85.
- Cornelius, W.A.**, 2004. *Controlling Immigration: A Global Perspective*, Stanford University Press.
- Corona, Rodolfo, Rodolfo Tuirán**. 2001. “La migración internacional desde y hacia México”, en J. Gómez de León y C. Rabell (coords.), *La población de México: tendencias y perspectivas sociodemográficas hacia el siglo XXI*, Conapo/FCE, México, D.F., pp. 444-484.
- Corona Vázquez, Rodolfo Tuirán**. 1998. “Modificaciones de las características del flujo

migratorio laboral de México a Estados Unidos”, en Manuel Ángel Castillo, Alfredo Lattes y Jorge Santibáñez (coords.), *Migración y fronteras*, El Colegio de la Frontera Norte, Asociación Latinoamericana de Sociología y El Colegio de México, Tijuana, B.C., pp. 243-261.

**Craig, Richard**, “Operación intercepción: una política de presión internacional”, *Foro Internacional*, 21 (1972), pp. 206-207.

**Davidow, Jeffrey**, 2003. *El oso y el puercoespín. Testimonio de un embajador de Estados Unidos en México*, México, Grijalbo.

**Delgado Wise, Raul y Margarita Favela**. 2004. *Nuevas tendencias y desafíos de la migración internacional México-Estados Unidos*, México, M.A. Porrúa, Universidad Autónoma de Zacatecas y Cámara de Diputados.

**Durand, Jorge, y Douglas S. Massey**. 2003. *Clandestinos. Migración México-Estados Unidos en los albores del siglo XXI*, Universidad Autónoma de Zacatecas y M.A. Porrúa.

**Durand, Jorge, Douglas S. Massey y Emilia Parrado**. 2002. “The new era of Mexican migration to the United States”; en *Journal of American History*, núm. 86, pp. 518-36.

**Durand, Jorge, Massey, S. Douglas, Clandestinos: Migración México-Estados Unidos en los albores del siglo XXI**, Porrúa, México, 2003.

**Escobar, Agustín, Frank Bean y Sydney Weintraub**. 1999. *La dinámica de la emigración mexicana*. CIESAS/Porrúa, México, D.F.

**Ferguson, Niall**, 2004. *Colossus: America Right or Wrong: An Anatomy of American Nationalism*, Nueva York, Oxford University Press.

**Fernández-Kelly, Patricia**. 1989. “Informalization at the Core: Hispanic Women, Homework, and the Advanced Capitalistic State” en Portes, A.M. Castells y L. Benton, eds. 1989. *The Informal Economy*, pp. 247-264.

**Fernández-Kelly, Patricia**. 1995. “Social and Cultural Capital in the Urban Ghetto: Implications for the Economic Sociology of Immigration” en Portes, 1995. *The Economic Sociology of Immigration*, Nueva York, Russell Sage Foundation, pp. 213-247.

**García Zamora, Rodolfo y Orozco, Manuel**, Coordinadores, *Migración internacional, remesas y desarrollo local en América Latina y el Caribe*, Porrúa, Universidad de Zacatecas, México, 2009.

**Goldring, Luin**. 2001. “The Gender and Geography of Citizenship, Mexico, U.S.: Transnational Spaces”, *Identities*, vol. 7 (4), pp. 501-537.

**Gómez de León, José y Rodolfo Tuirán**. 2000. “Patrones de continuidad y cambio de la migración hacia Estados Unidos” en R. Tuirán (coord.), *Migración México-Estados Unidos: Presente y futuro*, Conapo, México, D.F., pp. 17-28.

**Hall, Linda B. y Don M. Coerver**, *Revolution on the Border. The United States and Mexico, 1910-1920*, Albuquerque, NM: University of New Mexico Press, 1990, pp 16-27.

**Herrera Carassou, Roberto**, 2006. *La perspectiva teórica en el estudio de las migraciones, Siglo XXI*, México, pp. 225

**Huntington, Samuel P.**, 2004. *Who are We? The Challenges to America's, National Identity*, Nueva York: Simon & Schuster, pp. 221-256.

**Kearney, Michael**. 1995. “The Local and the Global: the Anthropology of Globalization and Transnationalism” en *Annual Review of Anthropology*, 1995, 24:547-65, pp. 558-9.

**Leite, Paula, Luis Felipe Ramos y Selene Gaspar**. 2003. “Tendencias recientes de la migración México-Estados Unidos”, en *La situación demográfica de México 2003*, Conapo, México, D. F., pp. 97-115.

**Pastor, Robert A.**, *The Paramount Challenge for North America: Closing the Development Gap*, Washington, North American Development Bank/American University, 2005.



- Riding, Alan**, *Distant Neighbors: A Portrait of Mexicans*. New York, Alfred A. Knopf, 1985.
- Rumbaut, Ruben**. 2006. "The Making of a People" en *Hispanics in America*, Marta Tienda y Faith Mitchell, eds., pp. 16-66.
- Smith, Robert C.** 2001. *Migration, Transnationalization and Race in New York*, Nueva York, Temple University Press.
- Ulloa, Berta**, 1976, *La revolución intervenida*, México, El Colegio de México, pp. 25-26.
- Torres, Blanca**, 2000, *México y el mundo, historia de sus relaciones exteriores. De la Guerra Fría al mundo bipolar, t. VII*, México, Senado de la República, pp. 207-217.
- Trigueros Legorreta, Paz**. 2005. "La migración femenina Mexicana hacia Estados Unidos y su participación en el mercado laboral de ese país" en Delgado Wise, Raul y Margarita Favela. 2004. *Nuevas tendencias y desafíos de la migración internacional México-Estados Unidos*, México, M. A. Porrúa, Universidad Autónoma de Zacatecas y Cámara de Diputados, pp. 97-127.
- Tuirán, Rodolfo**. 2001. "La migración de mexicanos a Estados Unidos", en *La población de México en el nuevo siglo*, Conapo, México, D.F., pp. 77-94.
- Tuirán, Rodolfo, coord.**, *Migración México-Estados Unidos: continuidad y cambio*, México, Consejo Nacional de Población, 2000.
- Wood, Bryce**, *The Making of the Good Neighbor Policy*, Nueva York, W.W. Norton, 1961.
- Zúñiga, Elena, Paula Leite y Luis Acevedo**. 2005. *Migración México-Estados Unidos. Panorama regional y estatal*. Conapo. México, D.F.
- Ellingwood, K.** 2004. *Hard Line: Life and Death on the US-Mexico Border*, New York, Pantheon.
- Espenshade, T. y Belanger, M.** 1998. "Immigration and public opinion", en Suárez-Orozco, M. (ed.) *Crossings: Mexican Immigration in Interdisciplinary Perspective*, Cambridge, Mass, Harvard University Press/David Rockefeller, Center for Latin American Studies, pp. 361-408.
- Grey, M.A., y Woodrick, A.C.** 2002. "Unofficial sister cities: meatpacking labor migration between Villachuato, Mexico, and Marshalltown Iowa", *Human Organization*, 61(4), pp. 364-75.
- Kraul, C.** 2004. "Illegal Immigrants Receive a One-Way Ticket to Mexico" *Los Angeles Times*, 13 de julio.
- Lahav, G.** 2004. *Immigration and Politics in the New Europe*, Cambridge, Mass., Cambridge University Press.
- Lowell, B.L. and Suro, R.** 2002. *How Many Undocumented?: The Numbers Behind the US-Mexico Migration Talks*, Washington, Pew Hispanic Center, 21 de marzo.
- Magaña, L.** 2003. *Straddling the Border: Immigration Policy and de INS*, Austin, University of Texas Press.
- Martin, P.L.** 2004. "The United States: the continuing immigration debate", en Cornelius, W.A., Tsuda, T., Martin, P.L. y Hollifield, J.F. (eds) *Controlling Immigration: A Global Perspective*. Stanford, Ca., Stanford University Press, 50-85.
- Massey, D.S., Rudand, J. y Malone, N.J.** 2002. *Beyond Smoke and Mirrors: Mexican Immigration in an Era of Economic Integration*, New York, Russell Sage Foundation.
- Ojeda, R.** (eds) *US-Mexico Relations: Labor Market Interdependence*, Stanford, Ca., Stanford University Press. 155-95.
- Ono, K.A. y Sloop, J.M.** 2002. *Shifting Borders: Rhetoric, Immigration, and California's Proposition 187*, Philadelphia, Temple University Press.
- Orrenius, P.M.** 2004. "The effect of US border enforcement on the crossing behavior of Mexican migrants", en Durand, J. y Massey, D.S. (eds) *Crossing the Border: Research from the Mexican Migration Project*, New York, Russell Sage Foundation, pp. 281-98.

**Passel, J.** 2004. "Mexican immigration to the US: latest estimates", *Migration Information Source*, Washington, Migration Policy Institute, 1. de marzo.

**Passel, J., Capps, R. and Fix, M.** 2004. "Undocumented immigrants: facts and figures", *Urban Institute Immigrations Studies Program*. 12 de enero.

**Ramírez Velázquez, Blanca Rebeca**, 2003. *Modernidad, posmodernidad, globalización y territorio*. Universidad Autónoma Metropolitana,

**Reyes, B., Johnson, H.P. y Swearingen, R.VB.** 2002. *Holding the line? - The Effect of the Recent Border Build-up on Unauthorised Immigration*, San Francisco, Public Policy Institute of California.

**Sherry, A.** 2004. *Foundations of US Immigration Control Policy: A Study of Information Transmission to Mexican Migrants*, San Diego, University of California-San Diego, Center for Comparative Immigration Studies, Working Paper No. 95.

**Singer, A.** 2004. "Welfare reform and immigrants: a policy review", en Kretsedemas, P. y Aparicio, A. (eds) *Immigrants, Welfare Reform, and the Poverty of Policy*, Westport, Conn. Greenwood Publishing Group, pp. 21-34.

**Spener, D.** 2001. "Smuggling migrants through South Texas: challenges posed by Operation Rio Grande", en Kyle, D. y Snyder, T. (eds) *Global Human Smuggling: Comparative Perspectives*, Baltimore, Johns Hopkins University Press, pp. 129.65.

**Velasco Ortiz, Laura**, 2008, *Migración, fronteras e identidades étnicas transnacionales*, El Colegio de la Frontera Norte, Porrúa, México, pp. 333.

**Winograd, B.** 2004. "Crossing the Border, Again and Again", *Tucson Citizen*, 5 de noviembre.

**Zúñiga, J.** 2004. "Border Shore-Up Pivotal en Imperial Beach's Whole Coastal Renaissance", *San Diego Union-Tribune*, 11 de julio.

**Banco Mundial.** 2005. *Generación de ingreso y protección social para los pobres*, Washington.

**Comisión Mundial sobre las Dimensiones Sociales de la Globalización.** 2004. *Hacia una globalización justa*. Ginebra: Organización Mundial del Trabajo.

**Consejo Nacional de Población**, 2004., *Informe de Ejecución 2003-2004 del Programa Nacional de Población*, México.

**Department of Labor.** 2000. *A Demographic and Employment Profile of United States Farmworkers: Findings from the National Agricultural Workers Survey, 1997-1998*, Washington: Office of the Assistant Secretary for Policy, US Department of Labor, Research Report Núm. 8.

[http://www.conapo.gob.mx/mig\\_int/03.htm](http://www.conapo.gob.mx/mig_int/03.htm) 21 de agosto de 2006.

**National Public Radio**, Kaiser Family Foundation y John F. Kennedy School of Government / Harvard University. 2004. *Immigration in America: Report on a National Survey*, septiembre, en línea en

<http://www.npr.org/new/specials/polls/2004/immigration/>

**Newport, F.** 2004. "Americans Worried About Immigration, Oppose Bush Plan", *Gallup New Service*, enero, en línea en <http://www.gallup.com/poll/releases/pr040114.asp/>

**Saad, L.** 2004. "Americans Divided on Immigration", *Gallup News Service*, 22 de Julio, en línea en <http://www.gallup.com/content/print.aspx/ci-12439>.

翻訳・解説

## 「移住の多面性：メキシコカン・ディアスポラ」について

松久玲子

本稿は、グローバル・スタディーズ研究科のセミナーのひとつである「アメリカン・ディアスポラ」シリーズの講演者マリオ・ヌニェス氏の希望により、2011年11月16日に開催されたスペイン語での講演原稿を翻訳したものである。

2011年4月から始まった「アメリカン・ディアスポラ」シリーズでは、アメリカ大陸という南北アメリカを含む地域の中で移動する人々を対象としてそれらの人々が生きる社会のありようを多角的にとらえることを目的とした講演を企画しているが、2011年度は特にラテンアメリカン・ディアスポラに焦点を当てた講演を企画した。シリーズの第5回講演会では、ラトガーズ大学のトランズナショナル・メキシカン・スタディーズ研究所所長をつとめておられるマリオ・ヌニェスマリエル (Manuel Núñez Mariel) 氏を迎え、アメリカ合衆国において人口的にも大きな割合を占めるメキシコ系移民についての講演会を開催した。ヌニェス氏は、1968年のメキシコ大学紛争の折に、学生運動のリーダーとしてメキシコ政府からの追及を逃れアメリカ合衆国にわたり、ご自身も政治的ディアスポラとしての経験をされている。現在はアメリカ合衆国を足場に、国際政治アナリストとして活躍し、メキシコの主要日刊紙ホルナーダ (La Jornada) などの特派員、コラムニストとして執筆活動を行っている。また、合衆国のメキシコ移民コミュニティにおいても支援活動をしている。同時に、現在メキシコで多発している麻薬テロに関する研究の第一人者でもあり、著書としては、『テロリストの狭間で (Entre Terroristas)』 (Fondo de Cultura Económica, México, 2004. 720p) を出版している。講演では、メキシコ移民の実情をアメリカ合衆国とメキシコの両方の側から多角的視点によって明らかにしていただいた。

